

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公開番号】特開2007-219498(P2007-219498A)

【公開日】平成19年8月30日(2007.8.30)

【年通号数】公開・登録公報2007-033

【出願番号】特願2006-342265(P2006-342265)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

C 0 3 B 32/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

C 0 3 B 32/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

銀(0)含有可視光偏光子の作製方法において、前記方法が、

非ハロゲン化物銀塩を含有するガラス溶融バッチを作製する工程であって、前記溶融バッチ中の前記銀塩の量が、銀(0)換算で0.05～1.0重量%の範囲の銀含有量を有するガラスを作製するのに十分である工程、

延伸してリボンにするのに適したガラスフォームを作製する工程、

25～150時間の範囲の時間及び前記ガラスの軟化点より低い温度をかけて、還元雰囲気内で前記ガラスフォームを処理する工程、

前記ガラスフォームを延伸して、リボンにする工程、

前記リボンを研磨する工程、及び

前記リボンを所望の寸法に切断し、よって可視光偏光子を形成する工程、を有してなり、

前記還元雰囲気内での処理は、前記溶融バッチがフォームに注型された後、かつ前記フォームが延伸されてリボンにされる前に行われ、

前記ガラスの組成は、モル基準で、前記ガラスの前記銀含有量の10%またはそれより少ない量のハロゲン化物を含有することを特徴とする方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

あらかじめ定められた厚さの偏光層を有する銀(0)含有可視光偏光子の作製方法において、前記方法が、

非ハロゲン化物銀塩を含有するガラス溶融バッチを作製する工程であって、前記溶融バッチ中の前記銀塩の量は銀(0)換算で0.05～1.0重量%の範囲の銀含有量を有するガラスを作製するのに十分である工程、

延伸してリボンにするのに適するガラスフォームを作製する工程、

あらかじめ選ばれた深さまで前記ガラス内の前記銀を銀(0)に還元するのに十分な、時間及び前記ガラスの軟化点より低い温度をかけて、水素の還元雰囲気内で前記ガラスフォームを処理する工程、

前記ガラスフォームを、あらかじめ選ばれた延伸倍率で延伸してあらかじめ選ばれた偏光層厚を有するリボンにする工程、

前記リボンを研磨する工程、及び

前記リボンを所望の寸法に切断し、よって可視光偏光子を形成する工程、を有してなり、

前記還元雰囲気内での前記処理は、前記溶融バッチがフォームに注型された後、かつ前記フォームが延伸されてリボンにされる前に行われ、

前記ガラスの組成は、モル基準で、前記ガラスの前記銀含有量の10%またはそれより少ない量のハロゲン化物を含有し、

前記あらかじめ定められた偏光層厚は、式 $A g^0 - A S = (A g^0 - B S) \div S F$ にしたがって決定され、ここで、 $A g^0 - A S$ は延伸後の前記ガラスにおける前記あらかじめ選ばれた前記偏光層厚であり、 $A g^0 - B S$ は延伸前の前記ガラスにおける前記還元銀(0)の前記あらかじめ選ばれた深さであって、 $B S$ はあらかじめ定められた延伸倍率であり、

$A g^0 - B S$ 及び $B S$ は、 $A g^0 - A S$ が延伸後に $10 \sim 40 \mu m$ の範囲にあるように選ばれることを特徴とする方法。